

第1回 八尾市総合計画審議会 第2部会 議事録

日 時：令和元年11月19日（火）18時30分～20時45分

場 所：八尾商工会議所会館3階 セミナールーム

出席者：清水委員（部会長）、和田委員（副部会長）、和泉委員、花嶋委員、織田委員、
岩本委員、大本委員、川野委員、椎野委員、丹波委員、吉田委員、増田委員、
植島委員、轉馬委員

欠席者：築澤委員、枡谷委員、谷原委員、野村委員

1. 開会

事務局

それでは定刻となりましたので、ただいまより「第1回八尾市総合計画審議会第2部会」を開催させていただきます。

2. 委員紹介

3. 議事

それでは、これからの議事進行につきましては、部会長にお願いします。清水部会長、よろしくお願いします。

清水部会長

第6次総合計画に向けて、第5次総合計画の総括におけるご意見を元に素案が作成されていますが、まだたたき台ということなので、ぜひ忌憚のないご意見をいただき、よりよいものにしていきたいと思います。よろしくお願いします。

（1）八尾市第6次総合計画の策定にかかる審議会の進め方について

清水部会長

本日の会議は第1回目なので、当審議会における部会の役割と今後の進め方について説明していただき、部会として共通認識を持ったうえで、今後の具体的な議論に入っていきたいと思います。それでは、進め方について事務局より説明願います。

事務局

（資料1、2、4、5説明）

清水部会長

確認しておきたい点などはありませんでしょうか。

(意見なし)

(2) 八尾市第6次総合計画（行政素案）基本構想について

清水部会長

事務局より説明願います。

事務局

(資料2説明)

清水部会長

第6次総合計画（行政素案）では、八尾市民が幸せを感じられるまちをめざし、基本構想では、あるべき姿としての「将来都市像」とそれを実現するための6つの「まちづくりの目標」が示されています。

また、今後この総合計画を市民と共有し、共にまちづくりを進めるにあたって、「市民にとって分かりやすい表現になっているか」、また「分かりやすいものにするにはどうすればよいか」という視点で審議いただきたいとのことでした。

基本構想についてのご意見を皆さまと共有したうえで、基本計画の審議に入りたいと思います。まずはご不明な点や、この基本構想の内容で適切なかどうかというご審議をいただきたいと思います。

時間の都合もございますので、学識委員の皆様や八尾市の委員のお二方については、すでにさまざまな知見をおもちかと思っておりますので、まずはそれ以外の委員の皆様から率直なご意見をお伺いしたいと思います。

それでは、織田委員から、いかがでしょうか。

織田委員

「まちづくりの目標と取り組み方向」について、具体的にどのようなことをしたいのかという内容があれば、もっと分かりやすくなります。内容の幅が広く、理想の状態は分かるのですが、それを実現するための具体的な考えを入れたほうがよいと思います。

大本委員

第6次総合計画を「八尾新時代幸せ成長プラン」と考えた場合、「まちづくりの目標と取り組み方向」の6つのテーマがこのプランのすべての入り口として表現されているかと言うと、具体的にイメージできないのではないかという印象を持ちました。この6つのテ

マで掘り下げるものと、それによってどの方向の成長につながるかが見て取れるものがあるれば、もっとスムーズにたどり着けるのでは、と感じました。

清水部会長

6つのテーマがどのようにつながっていくかが分かりにくいということですが、模式図のようなものがあればよいのでしょうか。

大本委員

この項目がこの方向性につながるプランであるということが、目で見えて分かるイメージ図のようなものがあれば、分かりやすくなると思います。

川野委員

大本委員とまったく同じ意見です。私は、商工業者を支援しているので企業関係の観点で見ると、「まちづくりの目標と取り組み方向」では「③活気にあふれ、誰もが誇りを持ち活躍できるまち」に含まれると思いますが、よいまちづくりのためには、企業にも様々なきっかけづくりが必要です。最初に「つながる」、「つづく」、「かがやく」とありますが、企業同士も「つながる」部分として何か入れていただければと思います。

清水部会長

様々な主体が「つながる」ということを、文章の中でもっと盛り込んでいただきたいというご意見です。

椎野委員

もう少し具体的に記載したほうがよいというご意見がありますが、基本構想なので、ある程度の汎用性や柔軟性を考えると、この形でよいと思います。私は銀行員なので様々な会社の社長とお会いするのですが、八尾市内の会社の社長は、移転するとしても引き続き八尾市内で商売したいと考えている人が多いです。「つづく」の観点で、社長が高齢化して次の世代につなげる際に、他市に出るという選択肢がないようにする施策も大事です。様々な施策がありますが、八尾市内で商売を続けて、働く人も八尾市内に住み続けることを、市が支援することも様々な発展につながります。そのような観点で見ると、この表題もよく考えて作っていると思います。

清水部会長

企業の視点からの「つづく」が、まちの発展につながることを読み取れる文言になっていない印象があるというご意見で、先ほどの「つながる」と同様、「つづく」についても、主体を幅広くとるほうがよいというご指摘です。

丹波委員

私どもも中小企業へ融資をしている機関です。全体的な方向はこれでよいと思います。ただし、市民生活に関する内容の記述は多いのですが、企業活動についてももう少し触れていただきたいと思います。

清水部会長

それぞれのお立場から見ると、少し物足りない面があるというご指摘です。

吉田委員

私はりそな銀行に勤務しています。りそなグループの行動宣言は「想いをつなぐ、未来を形に」で、八尾市のものと似ています。そこで「Next Action」ということも言われており、社員は「次にどうするか」を求められています。八尾市の「つながる」、「つづく」、「かがやく」は大賛成で、分かりやすいです。

今後日本の人口は全国で減少し、八尾市も「令和 10（2028）年の人口として約 25.4 万人と想定」となっています。中小企業を回ってもどこも人手不足で、社長から「人手不足を解消しなければ生き残れない」という悩みを聞きます。

基本構想なので、具体的なものより、その一手手前の全体を表すこのような表現でよいと思います。

日経新聞で、八尾市がベトナム人のための相談窓口を設置したことが大々的に紹介されていました。先行している事例だと思いますので、「共創と共生の地域づくりの実践」で、外国人の受け入れに関して、何かよい表現を入れてもよいと思います。

清水部会長

「つながる」に関しては、外国人への対応を充実しているなど、多様な国籍の人が住んでいることに視点を置くことも、八尾市らしさを表すものだと思います。

増田委員

キーワードである「つづく」は、子どもや若い人がつづくことについて記載されていますが、「親から子どもに伝える魅力」などの言葉を入れた「つづく」もよいと思います。子どもや若い人がつづくことが大切なことは分かるのですが、親世代が魅力に気づいて、次の世代につないでいく文言が入るだけで、子どもだけでなく、親世代も対象であることが伝わります。

私もこの資料を見ていて、目標や方向性がふわっとしているイメージがあります。市民としては、このような言葉に触れる機会がないため、もっとイメージが湧きやすくなるよう、具体的な写真を入れてもよいと思います。「②もしもの時への備えがあるまち」は、災

害を意識していると思いますが、現状をどう捉え、その上での八尾市の考え方の説明があれば、「八尾市で生活している自分たちのことを考えてくれている」ことが伝わるとと思います。

清水部会長

具体的なご指摘をいただきました。「つづく」は、子どもや若い人だけに任せるのではなく、親世代からつながる、つづくものだということです。今はまだ文字ばかりですが、今後は写真を入れるなど、分かりやすくするための工夫や改善が必要だと思います。

今までのご意見を聞いて、事務局から何かありますか。

事務局

様々なご意見をありがとうございます。行政として視点が不足しているところを補い、具体的な表現や写真を掲載するなどの改善をして、分かりやすくしていきたいと思います。

「まちづくりの目標と取り組み方向」や「将来都市像」についてご意見をいただきましたが、それ以外にもご意見をいただければと思います。

和泉委員

審議においては「分かりやすいものになっているか」という1つの観点が示されましたし、増田委員からは、方向性の書きぶりがふわっとしているというご指摘がありました。

3ページの「つながる」で、「少し“おせっかい”と言われても」という書きぶりがよいと思っています。話しかけることも伝わることだと思いますが、「おせっかい」には「つながる」イメージがあるため、このような言葉があると市民には分かりやすいです。すべての項目にこのような表現を入れることは難しいかもしれませんが、要所要所に、このような、よい意味で砕けた表現があればよいと思います。

8ページの「共創と共生の地域づくり」の用語の使い方についてです。「市民」と「地域住民」、「地域づくり」と「まちづくり」と文言を分けていますが、書きぶりとして仕方ないとは思いますが、「市民」と「地域住民」は同じですし、「地域づくり」と「まちづくり」は何が違うのかと思います。地域のほうがより小さいということで、エリアの大きさを分けて考えて、最後は9ページのインフラを含めた「都市づくり」につなげていることは分かりますが、市民の分かりやすさを考えると、もう少し整理できればよいと思います。絶対に修正が必要ということではないのですが、検討の余地はあると思います。

花嶋委員

5ページの「まちづくりの目標と取り組み方向」は、全体的に八尾市の中だけで考えているように思います。先ほど、「ふわっとしている」というご意見があったように、優しい話ばかりになっている印象があり、そうではないコンフリクトもあるように思います。

分かりにくかったのは、5ページの「日常の暮らしが快適で環境にやさしいまち」の「また、市民一人ひとりが資源エネルギーや地球環境を意識し、自らの生活環境を守っていかうとするとは『八尾に暮らし続けたい』という想いに繋がります」の部分です。これで行なうかどうか疑問に思いました。もっと長い文章だったものを省略してこの文章になったのだと思いますが、この文章だけを見ると、「地球環境のことを思うと八尾市に暮らし続けたい」ということにはつながりません。

八尾市だけでは暮らせないはずで、「八尾市の水はどこから来ているのか」、「八尾市のエネルギーはどこから来ているのか」も考えることが必要です。八尾市で燃やしたごみは、大阪湾の埋立処分場にもっていきます。もう少し広い範囲で考えることが、どこかに記載されればよいと思います。地球温暖化の問題が多方面で言われており、現実として、台風や夏の猛暑も地球温暖化が引き起こしています。市民一人ひとりが解決に向かって取り組んでいくことを記載することが必要です。

清水部会長

もっと広域的な視点が必要ということです。和泉委員からは、「おせっかい」などの言葉は分かりやすいため、積極的に使ったほうがよいこと、また、もっと用語の整理をしたほうがよいというお話がありました。

岩本委員

2点述べます。

1点目は、2ページの「地域コミュニティの変容」の「変容」という言葉です。「変容」とは、希薄になっているということ、またICT時代になって変わっていくということでしょうか。そこが少し引っかかりました。「再評価をする時代になった」という表現ではないかと思います。

2点目は、10ページの「図2 推計人口と想定人口」のグラフです。これを見ると、人口が大変減少するように見えてしまいます。同じ棒グラフでも、11ページの「図3 推計人口（年齢4区分）と高齢化率」では、それほど減少するようには見えません。図2のようなグラフは、減少することを強調して見せたいときはよいのですが、市民にアピールするものとしては相応しくありません。

また、なぜ人口だけを記載するのかと思います。例えば就業者数を予測されているのであれば、働く人の人口がそれほど減少しないのであれば、そのデータを表すこともよいと思います。ビジターの予測や学生の予測はできないと思いますが。全体の人口は、若干減少するイメージなので、そのような表現のほうがよいと思います。

清水部会長

「変容」という言葉は再考していただきたいというご指摘です。図2の人口のグラフは、

私も気になっていました。これは何を伝えたいかという点が大事であり、再考していただければと思います。

植島委員

行政の立場として、1点皆様のご意見をお聞きしたいと思います。10ページの「基本構想」にある計画期間ですが、第5次総合計画では10年でしたが、この素案では「時代の変化に迅速に対応するため」ということで、8年にしています。あまり期間が長いと未来をイメージしにくいということもあり、微妙なところがあると思います。

この基本構想を実現するために基本計画がありますが、「基本構想期間の8年を前期・後期の各4年間に分け」となっています。審議対象になっていませんが、もっと具体的な事業を定める実施計画を毎年見直します。行政として、あえて10年を8年に短くしたのですが、委員の皆様が、この計画期間についてどのような印象をもたれているかをお聞きしたいと思います。

清水部会長

一般的には、10年の計画が多いと思いますが、八尾市では今回初めて8年ということですが、皆さまいかがでしょうか。

和泉委員

一般的には10年ですが、今回2年間短縮する理由が、「時代の変化に迅速に対応するため」という住民目線の理由ですので、八尾市で独自に8年にしてもよいと思います。特に違和感はありません。

清水部会長

岩本委員はいろいろなご経験があると思いますが。

岩本委員

それほど違和感はありません。気にされているのは、8年というのが中途半端ということですか。個人的には令和10年という切りのよい年度を目標にしたところ、結果として8年になったという印象を持ちました。

清水部会長

特に違和感はないというのが大方の意見です。あまり短くなるのはどうかと思いますが、8年であれば、それほど違和感はありません。これ以上短くなると総合計画の計画期間としては、物足りないような気がします。委員の皆様は8年で問題ないというご意見です。

轉馬委員

この部会は、成長や魅力に関する分野の施策を対象に審議いただきますが、行政に欠けている視点や切り口、キーワードをお聞きできればありがたいです。

和田副部長

皆様のご意見と重複するところもありますが、まず構成で気になった部分があります。岩本委員のご意見とまったく同じなのですが、10～11 ページについてです。ここに「人口見通し」が入っていることに違和感があります。岩本委員から、グラフの見せ方にネガティブな印象があるため、もっと前向きなものをというご意見がありましたが、さらに踏み込んで述べます。目次を見ると、「Ⅱ．八尾市を取り巻く社会経済環境」とありますが、ここに人口の現状と将来が入り、それを見据えて、八尾市の将来性を語る必要があると思います。この部会のテーマである成長や魅力など、プラスの方向にもっていくことを考慮して、まず「Ⅱ．八尾市を取り巻く社会経済環境」において現状と将来の見通しを述べたうえで、「Ⅲ．八尾市の将来について」を見せることが必要です。構成として、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲまでをしっかり論じた後に、Ⅳにつなげるのがよいと思います。

また、その点を踏まえると、2 ページに、「Ⅱ．八尾市を取り巻く社会経済環境」として3 項目掲げていますが、「人口見通し」の部分は、ここの「人口減少と少子高齢化の進行」と重複します。ここで単に人口減少するというマイナスイメージを示すのではなく、八尾市が強みとしている、「みせるばやお」などの産業振興、また就業者数や女性の社会進出や学生の活躍によって生産年齢人口が伸びているなどの、社会参画でのプラスイメージで人口を語るのがよいと思います。現状としては、不可避な問題である高齢化も入れるのがよいと思います。

「人口減少と少子高齢化の進行」でグラフを入れるとすれば、「安全安心な暮らしと健康への関心の高まり」についても、犯罪件数など前回の報告書を見てK P I のよい数値を上げて、将来的に再考していくことも記載できます。

「地域コミュニティの変容」では、地域コミュニティのあり方として、もっとコミュニティを活かしていくために、既存のコミュニティ活動のよい面を記載するのがよいです。

「Ⅱ．八尾市を取り巻く社会経済環境」は、市民が見て、「八尾市の現状はこうなっていて、今後こうようになっていく」ということが共有できるものがよいです。以上が構成の大きなポイントです。

「Ⅲ．八尾市の将来について」で、「つながる」、「つづく」、「かがやく」がよいということとは、皆様のご意見と同じです。

5～6 ページについてはもっと具体的にというご意見がありましたが、基本構想なので、最低限のキーワードがあればよいと思います。あまり詳細に記載すると、基本計画の内容とのウェイト付けが問題になります。私は違和感がなかったのですが、あえて申し上げるとすれば、八尾市の特徴である企業と市民の共生や、新聞記事でも八尾市の外国人への対

応が掲載されているように、外国人との共生などを、バランスよく目標①から⑥に配置できればよいと思います。目標①から⑥は、市民を中心にした記載がよいです。

花嶋委員が言われたように、八尾市内での完結を私も感じました。広域的視点として、特に「②もしもの時への備えがあるまち」の部分で、これだけ災害が続く中で他の自治体など広域行政の視点が抜けています。八尾市だけではなく、開かれた要素を入れたほうがよいです。

清水部会長

構成へのご指摘も含めて、非常に的確なご意見をいただきました。

花嶋委員

先ほどからご指摘がある 10 ページの図 2 のグラフについてですが、原点が 0 になっていないことが致命的であるものの、私は、これ自体は明るいものと評価しています。この章に「人口見通し」を記載することに意味があると思ったのは、一般的には、総務省や大阪府などの統計から、人口減少の予測を掲げて既成事実として扱いますが、ここでは想定人口を入れて、そうならないよう、少し多めに頑張るという決意表明を示していると思ったからです。私は、これは非常に前向きなものと感じました。グラフは、原点が 0 でないことを示すために縦軸に波線を入れるなど、分かりやすくしたほうがよいと思います。人口減少していく中でも増加させようという意気込みを感じる人もいるということをお伝えしたいと思い、意見を述べました。

清水部会長

推計人口と想定人口の違いを説明いただけますか。

事務局

推計人口と想定人口の違いについてご説明します。11 ページの「参考」にも記載していますが、推計人口は、八尾市の近年の人口動態に基づいて、このままいけば令和 10 (2028) 年には約 24.4 万になるという、最近のトレンドで予測する人口です。

想定人口は、本市の近年の社会動態のうち、20 代及び 30 代の社会動態がゼロ、つまり転入転出の差をゼロと仮定し、かつ合計特殊出生率を令和 12 (2030) 年で 1.8、令和 22 (2040) 年で 2.07 と仮定した場合の人口です。若い世代に八尾市に来て住み続けていただくこと、そのための子育て環境を整備するなどを踏まえた場合、令和 10 (2028) 年の人口が約 25.4 万人になるという予測です。

清水部会長

想定人口を達成するためには、若い世代に住み続けていただく視点を入れて、子育て世

代への支援を行っていくことになります。

この辺りの書きぶりやどこに記載するかは、検討をお願いします。修正したり残したりする部分は、次回以降、なぜそうしたかという理由も説明をお願いします。様々なご指摘があったことを、まずは受け止めていただきたいと思います。

他にご意見がないようなので、私から9ページの「(3) 幸せ成長のための都市づくり」について意見を述べます。まちづくりの推進方策の中で、「(3) 幸せ成長のための都市づくり」は、どちらかと言うと、交通や防災など土木的な視点での書きぶりになっており、その中で「幸せ成長」とは何だろうと思いました。全体的にふわっとしているというご指摘がありましたが、「(3) 幸せ成長のための都市づくり」は具体的に記載されていて、「(1) 横断的な視点によるまちづくり」、「(2) 共創と共生の地域づくり」と比べて温度差と言いますか、深みの違いを感じました。ここまで具体的に書くことが必要でしょうか。

今回八尾市が「幸せ成長」を掲げるなら、何をもって「幸せ」というかが大事です。「Ⅲ. 八尾市の将来について」の「1. 将来都市像」にあるように、「つながる」、「つづく」、「かがやく」を達成することで幸せを感じていただきたいということだと思います。これを踏まえた幸せを考えると、このような内容になるかどうか違和感があります。具体的な改善案があるわけでないのですが、少し気になっています。

「(3) 幸せ成長のための都市づくり」について、事務局から現時点で何か補足説明はありますか。

事務局

9ページの「(3) 幸せ成長のための都市づくり」ですが、これを元に八尾市における都市計画につなげていきたいと考えています。「幸せ」についてのご意見をいくつかいただいておりますが、この総合計画を検討する際に、庁内で若手職員のワーキンググループを立ち上げました。その中で、様々な立場の八尾市民が幸せとを感じるためには、どのようなまちであればよいかというストーリーを考えたことが原点になっています。それを元にプロジェクトチームで集約したり、修正を加えたりして、5～6ページの目標①から⑥の「〇〇なまち」を考えました。目標①から⑥を踏まえた都市構造、都市形成であればよいのではということで、「幸せ成長のための都市づくり」として記載しています。表現が十分でない面もあるため、検討していきたいと考えておりますが、「幸せ」の意味は以上のように考えています。

清水部会長

どうあれば幸せかという定義は難しいものの、様々な発展性を考えてここに記載することは分かりましたが、幸せはこういったインフラ面だけではないように思います。ブータンが「世界で一番幸せな国」と言われていますが、ブータンは経済成長という数値ではなく、新しいハピネスという概念を打ち出しています。そう考えると、八尾市は、何かを

見せたくないために「幸せ」を謳っているのではという見方をしてしまいます。「幸せ」とは何かを突き詰めて考えた場合、9ページの記載には違和感があります。

もちろん市のキャッチフレーズとしては、「幸せ成長のための都市づくり」は明るい未来につながるものだと思います。

（３）八尾市第６次総合計画（行政素案）基本計画について

清水部会長

事務局より説明願います。

事務局

（資料２、６、７説明）

清水部会長

ここからは個々の施策についてご意見を伺いたいと思います。基本構想の内容を踏まえ、基本計画に落とし込まれていったということです。事務局から説明がありましたが、「めざす暮らしの姿がこれでよいか」、「現状と課題の視点がこれでよいか」、その上で、「めざす暮らしの姿と現状と課題を比較したとき、そのギャップを埋める基本方針となっているか」、またその他気づいたことについてもご意見いただければと思います。

<施策 No. ５ やおプロモーションの推進>

清水部会長

「めざす暮らしの姿」について、どのような背景からこの記載になっているか、事務局から補足説明をお願いします。

事務局（政策推進課）

「めざす暮らしの姿」の１点目の「八尾のイメージ向上が日々進展し、その魅力が市内外へ届くことにより市外には八尾に興味・関心・応援をしてくれる」は、関係人口の増加を意識して記載しています。総合戦略を進めている中で、「若い人の八尾市に対するイメージがよくない」というアンケート結果が出ていることから、第６次総合計画においては、そのイメージを向上させて市外からの関係人口を増やすことを意識していきたいと考えています。

２点目の「市内には誇りと愛着を持ちながら住み続ける人が増えています」は、八尾市に住み続けたいとより多くの人に思ってもらいたくため、八尾市の魅力向上と市民への魅力発信をめざしていくこととして、このように記載しました。

３点目ですが、八尾市には、歴史、文化、芸術、ものづくりなどの様々な資源がありますが、その魅力発信を“点”で行うのではなく、第６次総合計画を推進する上では、資源

を横につないで、皆さまに魅力を知って愛してもらうことで、引いては地域経済の活性化につながることをめざしたいという思いで、このように記載しています。

花嶋委員

率直な感想として、「やおプロモーション」とは何だろうと思いました。八尾市に観光客を呼び込むのか、あるいは八尾市のイメージアップをするのか、何をしようとしているのかがよく分かりません。

事務局（政策推進課）

第5次総合計画では、「魅力発信」という施策名でしたが、今回、「やおプロモーション」という施策名にしたのは、観光などの単なる魅力の発信ではなく、基本方針で新たに打ち出しているように移住、インバウンドなどの新たな施策を打ち出していきたいという思いがあるからです。そのような観点で、魅力発信だけに留まらず、シティプロモーションとして八尾市の取り組みを発信することにつなげていきたいと考え、あえて「やおプロモーション」と名付けています。

和泉委員

プロモーションの柱の中に観光があるのは、新しいと言えば新しいのですが、観光は、それだけでも施策として立てられる分野です。オリンピックや万博なども考慮して、将来的に観光で勝負するなら、第6次総合計画がかなり重要になりますが、それにしても内容は控え目な印象があります。「めざす暮らしの姿」の3点目が観光に関する記載で、ゲストつまり観光客のことを述べています。2番目の「市内には誇りと愛着を持ちながら住み続ける人が増えています」でも代用できると思いますが、観光におけるホストの観点も必要です。登場人物として、地域の方々も8年後の観光振興の中で見え隠れするのがよいと思います。単純に観光客でまちがにぎわうのではなく、観光によって、地域の人にもキックバックや恩恵があるため、その辺りのことも明確に触れる記述がよいです。

「現状と課題」に「歴史遺産」という言葉が出てきますが、26ページには「歴史資産」という言葉が出てきます。あえて使い分けをしていないなら、「遺産」と「資産」は統一したほうがよいです。

事務局

特に使い分けはしていないので、統一します。

和泉委員

事務局にお聞きしたいのですが、観光は施策9にも当てはまります。プロモーションと言うと販売促進活動のイメージですが、あえてそこに観光を入れている意図を確認させて

ください。

清水部会長

観光は施策9の地域経済に関する産業とも関連するのでは、と感じます。施策9と施策5に分けられたバックグラウンドについて、事務局から説明をお願いします。

事務局（政策推進課）

ご意見いただきました通り、観光はそれだけで1本の施策になりうる分野ですが、今回あえて「やおプロモーション」の中に入れたのは、基本構想として、今回は分野横断的に取り組みを進めていきたいという考え方があるからです。第5次総合計画では、観光施策、また情報発信と施策が分かれていたことで、庁内連携がなかなか進まなかったと認識しています。その反省を踏まえて、分野や部局を超えて連携することでより八尾市の魅力を強く発信し、さらには移住や定住を促進し、外国の方にはインバウンドで来ていただくことにつなげたいと考えています。そのため、今回はあえて「やおプロモーション」の中に観光を入れております。

観光の具体的な取り組みについては、基本方針にぶら下がる事業で打ち出していきたいと思います。

和泉委員

よく理解できました。具体的な取り組みについては、ぶら下がる事業でということなので、よいと思います。

花嶋委員

今の説明でよく理解できたので、市民に向けても「やおプロモーション」は八尾市のシティプロモーションを表す固有名詞であることを最初に説明したほうがよいです。「やおプロモーション」として注力することは分かるのですが、いきなり「やおプロモーション」と言われても、何のことか理解できません。

清水部会長

私も横断的であるということで理解できました。和泉委員からも、地域住民などの用語の定義について示唆がありましたが、言葉の整理をして、花嶋委員が言われたように、「やおプロモーション」など、新しく出てくる言葉については、丁寧に書くことが必要だと思います。

椎野委員

「広域的な視点での取り組みや魅力の積極的な発信」が、関係人口に効果を表すという

ことですが、八尾市のように空港があるまちは関西にはほとんどありません。百舌鳥古墳群は、あまりにも大きすぎて地上から見ることはできませんが、空から見るとパッと見ることができます。八尾空港から飛行機を飛ばして古墳群を見るなど、やりたくても空港がないまちではできないことが、八尾市ではできる可能性があります。八尾市内での施策に留まらず、交流人口や関係人口を広げていくことで、八尾市に来てもらうという施策であればよいと思います。関西国際空港が津波の被害に遭った場合、自衛隊もあるので、八尾空港が防災の拠点になることも考えられます。防災の観点で、周辺都市を含めた拠点になって、そこに物資を集めて周辺の市町村に配るという可能性も十分考えられます。八尾市には、人に来てもらって八尾市のことを知ってもらうチャンスが、他のまちよりあります。他のまちでは考えられないような潜在的な資産があるため、そのようなものをうまく謳えばよいと思います。素人的な考えですが、飛行機で古墳群など周辺も含めて見ていただいた後に、八尾市も見ていただくことは、他のまちより何倍も可能性があります。八尾市は、防災や観光など、あらゆる面で周辺を含めた中核的なまちになりえると思います。

清水部会長

貴重なご指摘だと思います。資源を余すことなく活用してどのように発信するかが必要です。ただ今のご意見に関して、事務局からコメントがあればお願いします。

事務局（政策推進課）

委員のご意見のように、八尾空港は貴重な資源だと考えており、市の魅力発信など、成長につながる取り組みをしっかりと進めなければならないと思います。大阪観光局や堺市との連携による八尾空港の活用なども検討しています。第5次総合計画期間中にできるものは取り組んでいき、第6次総合計画では、しっかり事業として打ち出していきたいと思っています。

清水部会長

時間になりましたので、施策7以降は、第2回以降の会議で議論したいと思います。全体的なことでお気づきの点があればお聞きしたいと思います。

花嶋委員

先ほどから、計画が八尾市に限定されていて、内向きになっていると感じます。悪気はないと思いますが、八尾市のことを小さくとらえ過ぎだと思います。日本における八尾市は、世界の中の八尾市であり、八尾市民の幸せのことばかり書いているので、内向きの印象があります。最初に、「世界の中の八尾」であることと、「世界の人々の幸せに立ったうえでの、八尾市の市民の幸せ」ということがどこかに書いてあれば、自分たちの幸せについて議論してもよいと思います。自分たちの幸せばかりを言うのは、今の時代では違うの

ではと思います。

清水部会長

「世界の八尾」というのはよいと思いました。総合計画ですので、八尾市のことが中心になりますが、ご指摘の点を検討いただきたいと思います。

和田副部会長

基本構想から基本計画に入っていくわけですが、15～18 ページの「横断的な視点によるまちづくりの実践」と「共創と共生の地域づくりの実践」は、基本構想の7ページの「横断的な視点によるまちづくり」と8ページの「共創と共生の地域づくり」をいかに実践していくかということで、分かりやすいです。しかし、9ページの「幸せ成長のための都市づくり」は、他の2つに比べていきなり出てくるので、温度差があります。

また、花嶋委員から「世界の八尾」という素晴らしいご意見が出されました。

7～8ページの「(1) 横断的な視点によるまちづくり」と「(2) 共創と共生の地域づくり」は基本計画に実践が出てきますが、「(3) 幸せ成長のための都市づくり」は、「幸せ成長」という大きくざっくりした記載になっています。「(3) 幸せ成長のための都市づくり」は、すべてに網羅されるものの基本計画には実践として出てこないため、基本構想のまとめとして、広く、「世界の八尾に向けて」といった形で記載してはどうかと思います。「幸せ」の中身をもっと検討して、基本計画に向けた構想のまとめにしたほうがよいです。今後の修正に向けて、早めに提案したほうがよいかと思い、述べさせていただきました。

大本委員

施策 No. 5 の「めざす暮らしの姿」と「現状と課題」で言葉にこだわる部分がございます。私は、30 年以上八尾市に住んで、八尾市で働いているのですが、「八尾のイメージ向上」や、「八尾のイメージを高めることが必要」という文言を見ると、市民としては「皆さんは八尾にどのようなイメージをもっているのか」、「イメージを高めなければならないのか」と感じてしまいました。この表現を少し変えることができればと思います。

清水部会長

今のようなご指摘をぜひお願いします。受け止める人がどう思うかという大事な視点です。様々な人が読むことを考慮して表現を考えることが大事で、われわれは、まさにそれを指摘する立場なので、少しでも気になる点があれば、ご指摘をお願いします。

先ほどの和田副部会長の構成のご指摘はぜひ検討をお願いします。「まちづくりの推進方策」は3つありますが、「まちづくりの実践」は2つに留まっています。方策を3点上げるなら、実践も3つ上げるべきです。実践に書けないのであれば、「まちづくりの推進方策」の記載を検討したほうがよいと思います。

本日は、様々なご意見をありがとうございました。今回は意見をまとめる会議ではありませんので、様々なご意見を伺えればと思います。

4. その他

(1) 今後の予定

事務局

1点目は、次回の予定です。資料1裏面をご覧ください。次回の第3部会についてですが、委員各位におかれましてはご多忙のところとは存じますが、12月24日（火）18時30分から八尾商工会議所会館3階セミナールームにて開催いたしますので、よろしくお願いいたします。

2点目としまして、ご意見シートについてです。本日ご説明いたしました資料5のご意見シートにつきましては、本部会での審議対象外となる施策についてのご意見がございましたら、次回の各部会の開催に先立ち、12月2日（月）までに事務局へご提出をお願いいたします。なお、いただきましたご意見につきましては、一覧にいたしまして、第1～第3までの該当する部会の審議にかけさせていただきます。記入枚数の不足やデータファイルでの送付等、ご不便な点がございましたら、事務局までお知らせください。その他の資料につきましては、次回以降の会議に際しましても使用いたしますので、お手数ですがご持参ください。

最後に、総合計画策定に向けたスケジュールと市の動きについて紹介させていただきます。去る7月1日の第1回全体会で総合計画策定に向けたスケジュールをご説明しましたとおり、行政素案につきましては、総合計画審議会でも11月から来年1月まで専門部会でご審議いただき、その後、正副部会長調整会議ののち、必要な修正を施し、2月から3月にかけて市民に対しパブリックコメントに付す予定です。

来年4月に第2回全体会を開催しまして、パブリックコメントの結果をご報告するとともに、答申案のご確認をいただきます。審議会から市長に答申をいただきました後、すみやかに行政案としてとりまとめ、来年度の市議会で審議をいただき、最終的な総合計画案のとりまとめを図ってまいりたいと考えております。

(2) 市議会でのご意見の紹介

市議会では、今年度から総合計画策定調査特別委員会を設けられ、市議会として総合計画策定に向けて責任ある議決を果たしていくため、特に調査し議論をすることとされています。本日の部会の開催に先立ち、11月11日に開催されました、八尾市議会・総合計画策定調査特別委員会において、行政素案及び総合計画審議会における今後の審議日程を報告しましたところ、行政素案についてご感想、ご意見が示されていますので、その概要を紹介いたします。なお、詳細は、ホームページに掲載されております特別委員会の動画で、自由にご覧いただけます。

それでは項目ごとに紹介いたします。

まず、八尾市を取り巻く社会経済環境については、資料2の2ページに、特に市が意識すべき事項について記載しましたが、「表現が行政だけのための計画と読み取れる表現になっていないか」というご意見がございました。

次に、八尾市の将来都市像については、3ページに、市民が幸せと成長を感じられるまちはこのようなまちであるというところを意識して記載しましたが、「もっと簡素な表現に」、また「どんなまちになるのかももっとイメージが湧くようにしてほしい」というご意見がございました。

横断的な視点によるまちづくりについては、7ページに縦割りの行政について横の連携を意識した計画にしていこうという意図で記載しましたが、「横断的な進め方はよい」というご意見の一方、「責任の所在が明確でなかったり、部局間の調整が煩雑になったりするのではないか」、「施策にもれはないのか」というご意見がございました。

共創と共生の地域づくりについては、8ページに、地域分権の次として、その理念を継承しつつも今まで以上に人とひととのつながりを大切にしていこうという方向性を打ち出したつもりですが、「言葉の意味が分からない」というご意見がありました。また、「地域コミュニティの衰退があるからこそ、本市における小学校区を単位とする地域のまちづくりの展開がされてきたのでは」というご意見や、地域に出向くことや出張所の今後の役割についてのご意見もありました。

人口見通しについて、10ページにおいて、「八尾に関わってもらう人や八尾に住み続ける人を増やし令和10年に推計人口から1万人増にすると」の記載があるが、この計画からはその取り組み状況が読み取れない」というご意見がありました。

計画期間については、13ページにおいて、時代の変化に対応して8年としましたが、「時代の変化に対応とあるが、本来普遍的なことを総合計画に書くのにその考え方はなじむのか」というご意見がございました。

共創と共生の地域づくりの実践の中で、18ページでは、地域においても活動の振り返りをしていただきたいということで記載しましたが、「PDCAサイクルについて地域活動で可能なのか」というご意見がございました。

また、施策の指標表示ですが、1指標の結果が施策の評価全体を表していないという理由で、指標表示はしておりませんが、「指標があることで分かりやすい面もあった」というご意見がございました。

その他全体的なご意見として、「八尾がどう変わるかという夢が基本構想から感じ取れない。抽象的である」というご意見や、「市民と『未来のやお』を一緒に作っていくということが読み取れる文章にしてほしい」というご意見もいただきました。さらに、「女性、若者、外国人、障害者の視点や、教育、文化の視点が構想には弱い」、「第5次の総括報告書に八尾市は市民力が高く学校はプラットフォームだとの記載があるが、第6次では学校の表記が弱い」とのご意見をいただきました。他にも、「行政経営をする中で、計画は、国・府の

補助金を取りに行く際のツールとなるので、戦略的な策定が必要である」というご意見もいただきました。

このように、市議会におきましても、新たな総合計画策定に向けて大いに関心を持たれており、審議会において、行政素案について議論を尽くしていただけますよう期待が寄せられております。今後とも市を挙げて、新たな総合計画がより良いものとなりますよう努めてまいりたいと考えておりますので、引き続きご審議のほどよろしくお願いいたします。

清水部会長

様々なところが注目をして検討してくださっているようですが、われわれ部会としての意見をまとめていきたいと思います。次回の部会の2時間で、残りの施策について議論したいため、事前に目を通していただいて、ご意見をいただければと思います。

5. 開会

清水部会長

これをもちまして、「第1回八尾市総合計画審議会 第2部会」を終了します。

以上